

平成 22 年 4 月 26 日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2007～2010
課題番号：19402036
研究課題名（和文） 英語化とアジアにおける社会編成—マレーシアの民間高等教育産業の展開と波及効果
研究課題名（英文） Englishization in Asia: The Development of Malaysia's Private Higher Education and its Effects on Social Formations in Ethnic, National and Regional Contexts
研究代表者
吉野 耕作（YOSHINO KOSAKU）
上智大学・総合人間科学部・教授
研究者番号：50192810

研究代表者の専門分野：ナショナリズムの社会学
科研費の分科・細目：社会科学B・社会学
キーワード：グローバル化、高等教育、英語、エスニシティ、国際移動、マレーシア、留学生

1. 研究計画の概要

マレーシアにおける民間の高等教育モデルの展開は、アジアにおける英語化の諸様相を象徴的に表している。本研究の目的・内容は以下の通りである。第1に、同モデルがマレーシアの特定の社会・経済・政治的状况において創造・開発された過程を明らかにする。第2に、同モデルが他国に技術移転される状況とそれを推進している仲介者の役割を考察する。第3に、同モデルがマレーシア国内のエスニック関係や社会階層に与える影響を分析する。第4に、同モデルの展開は、アジアと西洋を結ぶ国際移動・移住、さらにはマレーシア国内のエスニシティとより広い諸「文明」とのつながり等に影響を及ぼしていることが予想される。トランスナショナルな社会の再編成に与える波及効果を実証的に考察する。

2. 研究の進捗状況

英語を媒介とした高等教育のマレーシア・モデルの構築の背景およびそれがナショナルおよびグローバルな社会編成に及ぼす影響に関して、主に以下の研究成果を得た。

第1に、マレーシアにおいてトランスナショナルな民間の高等教育のモデルが創造された背景の調査、考察を行った。具体的には、(1)主な民間のカレッジの創業者への聞き取りや資料調査を通して、民間の高等教育モデル誕生の過程を明らかにした。また、(2)同モデルが創造された際の民間のカレッジの提携先であるアメリカのコミュニティ・カレッジおよびイギリスのポリテクニクの担当者特定化することに成功し、後者に関しては聞き取りを行った。(3)民間の高等教育制度

の成立・発展に関してエスニック関係の視点からの分析を掘り下げた。1980年代カレッジ創設時の事業者に対する聞き取りを通して分析の裏付けを行った。

第2に、英語を媒介とした民間の高等教育の普及がマレーシア国内の社会階層、エスニック関係に与える影響を分析した。

第3に、マレーシアにおける高等教育の民間化すなわち英語化が、留学生の国際移動・移住経路に与える影響を調査・分析した。具体的には、(1)インドネシアの華人留学生の送り出し側の現状を調査した。(2)留学生をマレーシアに送り出しているイスラム国（具体的にはモルジブ）の事情を調査した。これらの国のマレーシア留学経験者、留学斡旋業者などへの聞き取りを通して、留学生の移動経路に影響を与える諸変数を同定した。第4に、英語を媒介とした高等教育のマレーシア・モデルは、比較的安価で英米流の高等教育を開発途上国に導入する手段として注目され、アジア諸国において模倣されている。具体例として、ベトナム国立大学国際学校の事例を調査した。第5に、以上の活動領域において、マレーシアの多民族性・多言語性・多宗教性を資源としてグローバル市場で活躍するマレーシアの文化仲介者の役割を詳細に考察し、理論化を試みた。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

上記進捗状況に記した通り、ほぼ計画に基づいて進展している。また、成果の発表も行っている。

4. 今後の研究の推進方策

上記の研究成果の確認、追加およびさらなる推進のため、以下の活動を計画している。

(1) マレーシアにおける高等教育の英語化が、留学生の国際移動・移住経路に与える影響の調査・分析。特に、脱領域化するポストコロニアルな世界における留学生の移動パターンを理論化するためのフォローアップ調査を中心に行う。

(2) トランスナショナルな民族性・宗教性に関して理論化するための調査・分析を行う。特に、華人エスニシティと中華・華人文化圏、マレー人エスニシティとムスリム文化圏の連繋に関する確認作業と追加調査を行う。

(3) マレーシアの民間のユニバーシティ・カレッジの提携先である「西洋英語国」の大学の追加調査を行う。

(4) 国際比較研究の理論的方向性と方法論的可能性に関する議論および本研究の意義について、海外の研究協力者と議論する。研究協力者との議論の中で比較の視点を浮き彫りにする。今後の国際比較研究の理論的基盤を徹底的に吟味する。また、次段階の国際比較研究の特色・方法に関して研究協力者から評価・検討を受ける。

(5) フィールドワークのまとめの段階に入り、研究成果報告書を準備する。同時に、成果を単著として出版するための本格的な執筆に入る。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

- ① Kosaku Yoshino, 'The dominance of English: critical discourses and a sociological approach', *Sociological Studies* (Sophia University), 査読無, no. 34, 2010, pp. 1-17.

[学会発表] (計 3 件)

- ① Kosaku Yoshino, 'The Englishisation of Asia and global social structure: a sociological enquiry', Invited lecture, School of Language Studies and Linguistics, Faculty of Social Sciences and Humanities, Universiti Kebangsaan Malaysia, 23 March 2010, Bangi Malaysia.
- ② Kosaku Yoshino, 'The Englishization of higher education in Asia and the migratory flows of international students', Symposium on 'The Right to Move?: Debating the ethics of global migration', supported by the Carnegie Council and the Institute of Comparative Culture, 12 December 2009, held at Sophia University, Tokyo.
- ③ Kosaku Yoshino, 'Malaysia and its

Inter-Asian connections', Invited Lecture, Pacific Basin Institute, Pomona College, 27 February 2008, Claremont, California, USA.

[図書] (計 1 件)

- ① Kosaku Yoshino, in Kwok-kan Tam (ed.), *Open University of Hong Kong Press, Englishization in Asia: Language and Cultural Issues*, 2009, pp. 70-87. (論文標題は、'Englishization of higher education in Asia: a sociological enquiry')